

## 幼子と乳飲み子たちの口によって

私たちの主、主よ。

あなたの御名は全地にわたり、

なんと力強いことでしょう。

あなたのご威光は天でたたえられています。

あなたは幼子と乳飲み子たちの口によって、  
力を打ち建てられました。

それは、あなたに敵対する者のため、

敵と復讐する者とをしずめるためでした。

(詩篇 8 : 1、2)



2014年度JOMA会計担当  
基督兄弟団海外宣教委員・小田原教会副牧師

藤波尚美

2014年4月からJOMAの会計としてご奉仕させていただいております。海外宣教の分野で経験があるわけではなく、神学校を卒業して3年目という駆け出しの伝道者であり、いったい何ができるのだろうかと思いつつ、「奉仕する人があれば、神が豊かに備えてくださる力によって、それにふさわしく奉仕しなさい」(1ペテロ4:11)というみことばに励まされ、最初の役員会に足を踏み入れたことを思い出します。

冒頭に詩篇のみことばを掲げました。天地であがめられる力強い御名と威光をお持ちの主がお用いになるのが「幼子と乳飲み子たちの口」だというところに驚きを感じます。幼児ならともかく、乳飲み子の口を用いると言っても、乳飲み子はまだことばを話すことができません。昔は乳離れが遅かったようですから、今の幼児ぐらいの年齢の子供のことかもしれませんが、たとえ幼児であっても大したことは言えません。難しいことばは使えませんし、ことばを間違えて使うこともあります。無力な人間とはいえ、せめて人間の中でも知恵ある学者とか雄弁家とか詩人などのことばの才にあふれた人々、美しく力

強い賛美をする歌手などの口のほうが、神のみわざのためによほど用いられるのではないかとされます。

けれども、神に比べたら圧倒的に無力な人間の中でも最も無力な乳幼児を神は用いてくださいます。そのうえ、乳幼児にはまだ使いこなすことのできない口を用いてくださるのです。しかも、小さな子供だから小さなそれなりの用い方をするのではなく、神の敵を倒すという大きな働きのために用いてくださいます。

海外宣教の働きは、特別な賜物を持つ人々だけが用いられる特別な働きというわけではありません。もちろんたくさん訓練が必要な働きの分野もありますし、適性の問題もあるでしょう。けれども、そのような働きばかりではありません。特別な訓練を受けなくてもできる働きもありますし、祈りや献金のように、いつでもどこでもだれでもできる働きもあります。そもそも、賜物や適性をお与えになるのも、必要ならば訓練をお与えになるのも神です。

「幼子と乳飲み子たちの口」さえもお用いになる神にとって、海外宣教のために用いることのできない人などありません。神が私たちが用いようとしておられるこの大きな働きのため、共に労してまいりましょう。

加盟団体活動報告



(オペレーション・モービライゼーション)  
**Operation Mobilisation**  
 ~働きのご紹介~ OM 日本 総主事 酒井信也



OMの働きはアメリカの一人の女性の祈りから始まった。地元の高校生が救われて宣教師になるようにと祈っていたこの女性は、当時未信者だった高校生にヨハネの福音書を渡した。これが後にOM創始者となったジョージ・パウワー。この冊子がきっかけとなり、ジョージはビリーグラハム伝道大会で献身。1957年の夏、大学生だったジョージは友人と共にメキシコ宣教に赴き、一万冊のヨハネの福音書と二万冊のトラクトを配布して伝



道を始めた。1960年代には当時宣教活動が制限されていたスペインへ渡り、ヨーロッパ諸国での働きを通して二年間で二万人を超える人々が救いへと導かれた。

20世紀末までには東西ヨーロッパ、中近東イスラム圏、南アジアを主たる宣教地として3千名の奉仕者が福音宣教に携わるまでに成長。1970年に始まった福音宣教船の働きにより、OMの働きは全世界の教会に知られるようになった。

21世紀に入って宣教の場は東南アジア、アフリカ諸国、中南米へと更に拡大し、現在110カ国で活動を繰り返している（日本でも約20名の外国人宣教師が国内で活動、その数は年々増加）。福音宣教船や短期宣教プログラムに参加した人たちが母国へ帰ってきてOMの働きを立ち上げるというケースもあり、各国での宣教活動は（中近東、西・中央アジアのイスラム圏などを除き）基本的に現地人OMリーダーの指導の下で働きが進められている。

スマートフォンの普及、格安航空会社の躍進などでますますグローバル化が進む現代。宣教の場でも国境を越えた活動が世界的規模で展開されるようになってきた。エイズ・リンク（AIDS/HIVの教育啓蒙、感染者支援）、スポーツ・リンク（スポーツ宣教）、アーツ・リンク（芸術や音楽を用いた宣教）、B4T（Business for Transformation 社会的支援のための起業投資）、フリーダム・クライム（抑圧された女性や子供など、社会で声なき者の声として人権を主張する登山キャンペーン）などの働きは、御国の建設のために国境を越えて人と人とを結びつけている。

現在、シリア／イラクで大量に発生している難民の救済・支援活動は急務の働き。またロゴス・ホープ号は宣教のグローバル化のカタリストとして、世界の教会／クリスチャンたちに刺激と影響を与え続けている。



2014年9月、台湾 アンピンで福音宣教船の歴史上最多記録となる一日28,931人が船上書店を訪問！



OMの働きは全人的宣教	evangelism <b>福音伝道</b>	祈ろう! 捧げよう! 行こう!
	relief and development <b>人道支援 / 社会支援</b>	
	church planting <b>教会開拓</b>	
	justice <b>社会的正義 / 人権擁護</b>	
	mentoring & discipleship <b>訓練・育成 / 弟子訓練</b>	

## 宣教ツアーの継続で与えられている恵み

東京フリー・メソジスト教団宣教委員会委員長 水口 功



私たちの教団では、2004年10月からタイ・チェンマイの日本語教会に野尻孝篤・明子宣教師夫妻を派遣しています。ちょうど昨年で10年が経ちましたが、この間、宣教地の視察と応援を目的とした宣教ツアーを4度実施しました。その恵みをお分かちいたします。

### 1) 目で見て実感できる宣教地の実際

宣教師の働きは、通常は教団の宣教委員会で発行している宣教ニュースや、野尻宣教師からのメールなどで「情報」として受け取っています。しかし宣教ツアーに参加すると、1～2週間の短期間とはいえ、現地の教会の様子、宣教の喜びと課題、現地の食べ物や交通事情や気候など、宣教師の日常に触れることができます。ある参加者は、「野尻宣教師が、タイ語で現地の人とやりとりしている姿を見て、今さらながら先生がタイ国に遣わされているのだと実感できました」という感動を、帰国後の報告会で伝えました。

### 2) 現地教会のメンバーとの継続的交流

どの国も、日本語教会はメンバーの入れ替わりが激しいと言われます。チェンマイの教会もご他聞にもれませんが、それでも長期滞在をされ、教会で中心的な働きを担っている方々も数名おられます。チェンマイ日本語教会は、比較的高齢者が多い教会ですが、教会の奉仕に喜んで勤しみ、以前より若返っ



右：野尻宣教師、左・著者：水口

たように見える方々との再会にたいへん励まれています。チェンマイ日本語教会は超教派の教会であり、私たちはフリー・メソジストという教派の教団ですので、その点での違いが確かにありますが、ツアーを繰返す中で、「同じ主イエスにある普遍的教会」の一員としての交わりが深まっていることを実感しています。

### 3) 宣教ツアーのメンバー間の親しい交わりの機会

昨年2～3月に実施した第4回宣教ツアーでは、毎朝、宿泊先で11名の参加者が集まり、短い礼拝から一日を始めました。そして朝食、一日の終わりの反省会、ツアー中の移動時間は、日常では経験できない濃密な交わりの機会となりました。それは、さながら「移動修養会」と呼べるほど、恵み豊かな日々でした。このメンバーの中から、直接献身に導かれ、今春、神学校入学を希望する若い姉妹も起こされました。

今後も2年か3年に一度、宣教ツアーを企画し、現場で労する宣教師とともに、主のわざに励んでいけることを願っています。



2014年宣教ツアー：  
チェンマイ日本語教会員と共に

## 今日の世界宣教「あらゆる所から、あらゆる所へ」 — OMF ニューホライゾンスの取り組み—

OMF インターナショナル 佐味湖幸

3年前、中米コスタリカに住む中華系コスタリカ人の方からこのようなメールが届きました。「ネットでOMFのことを知りました。台湾宣教に興味があります。導いてください。」

ここ数年、世界中からこのような問い合わせが週に3件ほどOMFにあります。特に多いのはアフリカのナイジェリア、南米のブラジル、東欧の国々、インドなどからです。しばらく前までは被宣教地と見なされた国々や地域から、今多くの宣教師が起こされてきています。ブラジルとインドはアメリカ、韓国などに続いて世界の宣教師派遣国トップ10に入っており、その他に南アフリカ、フィリピン、メキシコ、中国、コロンビア、ナイジェリアなども近年特筆すべき数の宣教師を送り出しています。宣教師とえば、西洋から来た白人という時代は前世紀のこととなりました。

インターネットを使って宣教地のことだけでなく、宣教団体について調べ、連絡を取って来るのも今日ならではのでしょう。世界がネットによって繋がり、小さくなっています。20年前には考えられなかったことです。

このような今日の世界宣教を取り巻く状況と、また東アジアでのさらなる宣教師の必要を覚える中で、OMFは2012年4月、ニューホライゾンスという新しいチームを立ち上げ、これまでOMFが事務所をもたず、働き人を受け入れてこなかった中南米、北、東、南ヨーロッパ、アフリカ、南アジアなどから、これらの国にある宣教団体や教会と協力して、宣教師を受け入れることになりました。



ブラジルからのJ.P.カルバルホ宣教師…ダンスミニストリー

ニューホライゾンスチームは世界各地に働き人が散らばり働きを進めています。ヨーロッパと中南米にはモービライザーと呼ばれる働き人がいて、それぞれの大陸の諸教会や宣教大会などで東アジアでの宣教の働きを紹介し、現地にある宣教団体や教会とネットワークを作ります。私はOMFの国際センターがあるシンガポールに在住し、人材コーディネーターとして、世界中から問い合わせをしてくる方たちとのコミュニケーションや宣教師候補者の審査と彼らが宣教地に行くまでの助け、また東アジアの宣教地とのやり取りなどを担当しています。チームの財務担当者は南アフリカ在住、チームリーダーはイギリス在住です。

今まであまりOMFに馴染みのなかった国々や地域の方々がOMFに入ってきます。宣教師間の異文化コミュニケーションを始め、彼らを派遣する国々の宣教団体や教会との英語を使ったコミュニケーションも大きなチャレンジです。しかし、主は今日、さらなる世界宣教の前進のために世界中の教会を動かしておられます。その主の霊に足並みをそろえて行きたいと願っています。

◀ OMF ニューホライゾンスチームと共に

# モンゴルの 障がい者と共に

坪内貴代子



夏キャンプ：天候が悪くゲルの中にてメッセージ

2007年のモンゴル宣教ツアーに参加した折にモンゴルの東部ヘンティ県に行きました。そこで、モンゴル語も手話もできず耳の聞こえない妹さんに「どのようにすれば福音を伝えることができるか」という質問を受け、モンゴルの抱えている問題を知りました。

モンゴルは日本の約4倍の土地に、当時の人口は270万人（現在290万人）で、聾学校は首都ウランバートルに1校あるだけ、地方の聴覚障がい者は教育を受けられない状態でした。現在は、聾学校に寮もあり、地方の聴覚障がい者も教育を受けられるようになっています。しかし、年配の方々の多くは、教育の機会が無く、モンゴル語も手話も知らないのが現状です。（ただ、地域によっては、そこに住む聴覚障がい者自身によって作られた独自の手話もありますが、それは、ほんの一握りのことです。）

当初、地方の聴覚障がい者は教育の機会が、全く無いものと思っていましたので、彼らと共に言葉を学びつつ共に働く機会を願い、2009年にアンテオケ宣教会からモンゴルに派遣されました。しかし、派遣後に出会った20代30代の若い方々は、聾学校で教育を受けておられました。ところが、彼らが所属している教会は、韓国系の異端だと分かりました。ヘンティに2007年にはなかった異端の教会が、2009年に牧師のいない群れを引き継いだのでした。

モンゴルは広い土地に散らばって生活をしています。福音を伝え終わると、その伝えた方は次の村へと行き、その結果、牧会者のいない群れや、信仰を持ったばかりの方が群れを養うということは、モンゴルでは珍しくありません。聖書知識も乏しい中で、み言葉を語ることは大変なことだと思います。地方では聖書を学んだという方の多くはせいぜい1ヶ月程度で、長くても4ヶ月ぐらいです。

また、モンゴルは1990年に福音伝道が開始され

て、まだ25年という若い国です。しかし、彼らはよく伝道をし、信徒はどんどん増えています。ウランバートルには神学校や聖書学校を持つ大きな教会もあります。また、移動神学校（年に数回）を自主運営されている牧師もおられます。

けれども、それも、ほんの一部分のことで、依然として、モンゴルでは、良い牧会者を育てるために、聖書を学ぶ機会や、様々な問題に対処してゆくための霊的な養いが不足しています。それだけでなく、出来上がった群れが、孤立しないで他教会との協力関係が持てるような支援が必要です。実際に、ヘンティ県では、教会同士の協力関係は殆どありません。その結果、異端が入ってきてしまいました。孤立しないように他教会との協力関係を求めておられる牧師がいますが、福音を伝えてくださった宣教師のグループ内での交わりに留まっていて、地域の教会同士の協力にまでは至っていません。

日本という国に生まれ、先に福音が伝えられた国にいる私たちには、どのようなことができるでしょうか。良き知恵が与えられるようにお祈りしてください。（第一コリント12章12～14節）



夏キャンプでのグループの出し物：賛美

## 世界宣教関係イベント情報

### ◆ 2015年度JOMA総会のご案内

日時：2015年4月21日（火） 13:30～15:30  
会場：お茶の水クリスチャンセンター 415号室（予定）  
総会プログラム

- 議案1： 2014年度事業報告
- 議案2： 2014年度決算報告
- 議案3： 2015年度役員選任
- 議案4： 2015年度事業計画
- 議案5： 2015年度予算案
- 議案6： その他

### ◆ JOMA世界宣教セミナーのご案内

総会に先立ち、世界宣教セミナーと、加盟団体昼食会を行います。

11:00～12:00 世界宣教セミナー（内容は検討中）  
12:30～13:30 昼食をとりながら、  
各加盟団体の紹介と報告

#### お願い：

加盟団体の会費は、総会前日までに必ず、以下の郵便振替口座へお振込み下さいませよう、お願いいたします。（総会当日の現金での納入は、受け付けておりません。）

口座名義： 海外宣教連絡協力会  
口座番号： 00160-7-106631

### アンテオケ宣教会

#### ◆ 世界宣教セミナー 2015

時期：8月25日（15:00受付）～27日（昼食後解散）  
2泊3日  
場所：奥多摩バイブルシャレー  
任地も働きも多様な数組の現役宣教師と顔を合わせて交わり、任地の最新状況を聞きながら、世界宣教について共に考えましょう。（詳細は、アンテオケ宣教会 jimukyoku@jantochm1977.net へお問い合わせ下さい。）

### OMF インターナショナル

#### ◆ OMF 150周年記念宣教大会

日時：6月6～7日（札幌）、9日（盛岡）、11～13日（東京）、14日（大阪）、19日（名古屋）、21日（福岡）  
講師：OMF 総裁パトリック・フン師ご夫妻、OMF 日本フィールドダイレクター・ディビッド・ファーガソン師、他  
（詳細はOMF事務局までお問い合わせくださるか、ホームページをご覧ください。）

### J+Passion 東京 2015

#### ◆ J+ Passion Tokyo 2015

日時：2015年4月25日（土）10:30～17:00  
会場：大野キリスト教会（神奈川県相模原市）  
テーマ：「自分事」  
聖句：出エジプト記3:4  
大会講師：永井信義師（東北中央教会）  
中村宏章師（大野キリスト教会）  
その他分科会講師多数。

### 日本ウィクリフ聖書翻訳協会

#### ◆ ウィクリフ・カフェ（東海）

日時：2015年6月6日（土）13:30～16:00  
場所：金山クリスチャンセンター1F（名古屋金山キリスト教会）

#### ◆ 異文化宣教セミナー 2015 西日本入門コース

日程：2015年7月5日（日）～7日（火）  
※初日受付は17:00～  
場所：大阪府立少年自然の家

#### ◆ 異文化宣教セミナー 2015 東日本入門コース

日程：2015年9月3日（木）～5日（土）  
※初日受付は17:00～  
場所：軽井沢フェローシップバイブルキャンプ

#### ◆ 異文化宣教セミナー 2015 東日本実践コース

日程：2015年9月6日（日）～12日（土）  
※初日受付は17:00～  
場所：軽井沢フェローシップバイブルキャンプ

### ■■■ JOMA 通信 ■■■

発行所：JOMA（海外宣教連絡協力会）  
住所：〒101-0062 東京都千代田区  
神田駿河台2-1 OCCビル内6F  
メール：jomaofficekanda@yahoo.co.jp  
（電話はありません）  
発行者：菅家庄一郎  
編集者：松沢実喜男（レイアウト：LLP Hope Works）  
ホームページ：http://joma.hope8.net/  
郵便振替（口座名義：海外宣教連絡協力会）  
口座番号：00160-7-106631